



家づくりが育む建築への道のり | 人は病み老いる 医療・福祉施設

一級建築士事務所アトリエ4A代表 天野 彰

(第11回/全12回)

人は病み、そして老いる

ある医師の住まいの設計の打ち合わせをしていると「私の医院も見てもらえますか?」と誘われ、医師の仕事に興味もあり喜んで応じた。そこで医師の目線で見ると医療の光景に新たな感動を得る。医院の建物は単なる診療、医療の場だけではなく、それを支える医師や看護師たち医療従事者の機能的かつ迅速な動線と環境づくりだった。

医師の家づくりで学ぶ建築士の職能

今回の長引く新型コロナ蔓延災禍でますます煩忙し疲弊する医療現場の従事者を見て、住まい・医院づくりで建て主の生活や健康に留意し奔走してきた自身の人生と重ね合わせ感無量となる。

家づくりでは建て主の本音を聞くことが多い。中でも人の命や生活を預かる医師方から多くを学び建築士としての職能と共感することも多い。

「ちょっと緊急手術を行うので妻と打ち合わせをされていて下さい」

血の滴る急患の手を持ったまま目が眩みそうな場面に遭遇したり、さらにお産が長引き、明け方まで打合せを待たされた産科医の家づくりもあった。

まさに生身の人の住む家の設計は建て主の生き様や建物の経年変化を学び、多くの建て主や家族さらに職人と出会い調整し、カタチにする職能と思う。

そんな忙しい医師たちの過酷な日常生活と病院内での時間との闘いを見て、機能的かつ快適で愉しく働ける環境づくりの重要性を感じ、同時に病んで弱くなった人々の療養の場づくりをまさしく住まいづくりの発想でつくる。

同じ街に○△□*の三つの歯科医院

ある街の歯科医師で、家づくりではあまり関心を寄せなかった夫の診療室の設計をすることとなった。「一人でも多くの患者を診たい…しかも丁寧に能率良く」と強く希望。そこで自身を中心にして

患者の顔が近くに来るように診療台を放射状に並べ、独特の円形の診療室となった。外観はそのまま丸く街に降り立ったUFOのような景観となった。

その完成を見た近所の仲間の歯科医からは「私はそれぞれの患者から自慢の庭が愉しめるように」と依頼。庭に沿って診療台を並べて三角のプランとなり、カースペースの為に方杖で二階を大きく支え、まるで「ジョーズ」が口を大きく開けたようなファサードとなった。

さらに隣街の歯科医からは実直な人柄から「僕は真つ四角に!」と診療台を並列に並べた。しかし3階のピラーにスーパーマンが通り抜けたような穴をこっそり空けた。この3軒の歯科医院は、いずれも4~5分の距離でしかも同時期。まさに彼らの



○歯科*1
昭和51年竣工。最初の医院建築で、診療台を放射状に配置し、そのままの円形が外観となる。鋭角の土地で、舟の船先をイメージし、この地に舞い降りたUFOのような外観となった。基壇を現地産の石垣にして景観との融合を図った。(RC 3階建456m²)



△歯科*1
昭和54年竣工。間口が狭く奥に三角に広がった敷地、どの診療台からも庭が見える。さらに車を三台停めたいため2階住居の大きなキャンティレバーを方杖で支え、タイル割でのこぎりの刃のようになり、映画「ジョーズ」のサメの歯のように丈夫な歯にしようなどと評判となる。(RC 3階建443m²)



□歯科*1
昭和53年竣工。白杉の隣町、JR津久見駅前。間口が狭く奥に長いコの字町家プラン。周りの瓦屋根と調和させる色調と素材を配慮。ピラーをスーパーマンが通り抜けたような穴がある。(RC 3階建528m²)

建物を○△□と、子どもたちからも人気を集め、楽しい歯科医院となった。各々の院長を知る人からは「それぞれの人柄を感じさせる」とは、なによりの賛辞と思う。

病んで老いて住む 医療・介護療養施設の動線機能

医療現場での慌ただしい診療や手術さらに食事やケアの姿を見て、入院患者の静かな環境づくりと共に働く人の機能動線と快適性を感じ、医師や看護師双方の意見を重んじプランをつくる。まさに住まいづくりと同じと言える。

家と病院の双方を設計する立場から、病院は治して家に帰すのに対し、住まいでは生活復帰が難しく、中間施設の必要性を感じていた。そんな折、厚生省(現厚生労働省)から請われ「住まいと福祉の研究会」を発起、答申に病院と住宅の「中間施設」を提案、のちの「老人健康施設」となった。

賛同された外科医院のいけだ病院(千葉県船橋市)に中間施設「前原苑」を併設。その後「老人保健施設」を設計することになる。さらに療養室をユニット毎に分け、系統立てて手厚い介護ができる三つ葉のクローバーのようなプラン「しらすぎの里」*2を群馬県藤岡市に建設、今日のユニット方式を提案した。

*2 老人健康施設「しらすぎの里」
クローバーのような平面図で10室ごとにユニットにレグループ別に介護する。



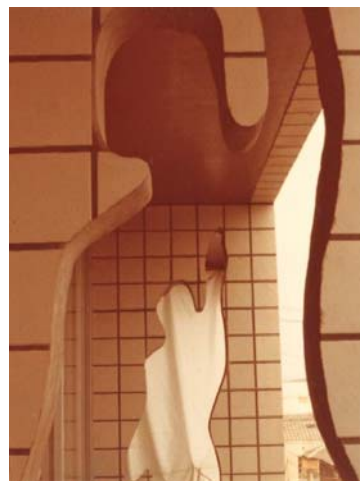
* 1 ○△□ 3つの歯科医院



○歯科—昭和51年竣工.最初の医院建築で,診療台を放射状に配置し,そのままの円形が外観となる。鋭角の土地で、舟の舳先をイメージし、この地に舞い降りたUFOのような外観となった。基壇を現地産の石垣にして景観との融合を図った。(RC3階建456m²)



△歯科—昭和54年竣工.間口が狭く奥に三角に広がった敷地,どの診療台からも庭が見える。さらに車を三台停めたいため2階住居の大きなキャンティレバーを支える方杖で支え、タイル割でのこぎりの刃ようになり、映画ジョーズのサメの歯のように丈夫な歯にしようなどと評判となる。(RC 3階建443m²)

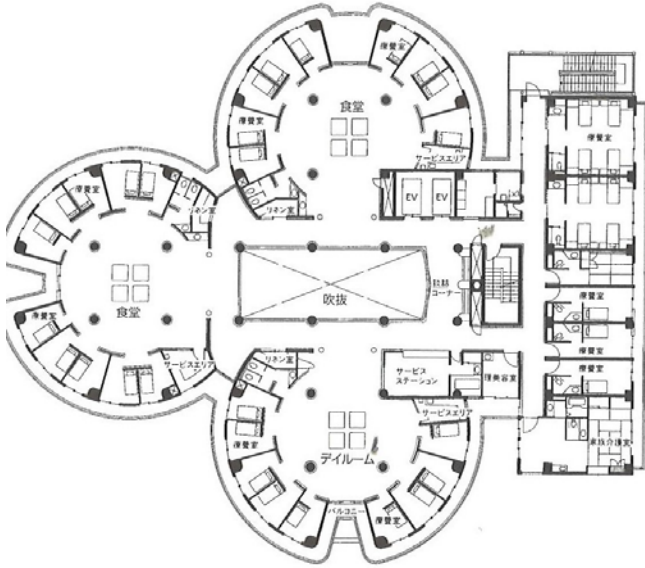


□歯科—昭和53年竣工.臼杵の隣町,JR津久見駅前.間口が狭く奥に長いコの字町家プラン。周りの瓦屋根と調和させる色調と素材を配慮。ピラーをスーパーマンが通り抜けたような穴がある。(RC 3階建528m²)

* 2 老人健康施設「しらさぎの里」

クローバーのような平面図で10室ごとにユニットにしグループ別に介護する。

3階平面図



しらさぎの里三つ葉のクローバー平面



2階ホール

円柱やRを多用しまろやかな空間としている



ファサード 3つのグループホームを表現した型の外観



1階吹き抜け